青楼倡客叢談夢回

2132
80

題倡客窟學問
淨留理淡嶋文曰
謂戀搜其水上則
歷然而有臍下也
猶應于之以吉原

饗庭文庫

80
2132
80

爲其水上是有水
道屈之謂也蓋有
河竹之流而其浮
沉無極乎故有爲
垢拔客亦有立水

晏子使楚入郊國之門至于入北
面之門而見仲尼曰仲尼將何適
用曰夫聖人敬敖者而安侮者
哭之哀哭死者而悲馬見通人之喜
不知明也知行乎仍家之切押明堂中
有光之向背盈之容而熱冬時完學子問
而后可知吉凶三千自之用秋士有也矣

霍鳴撥至人賦

犬の用心
三

自序

誌の生るゝと放ちの巴岩清水乃
救生會。牧ふ月中の五ふ形を。
牧手洗生 晦日の夜沿るゝと救
ハ吉原の古稿ゝてゝ胥
倡妓の清乗。公文構仕紙代媒

沼代後帽ふ徙てよれば上下ま
ゝ書あゝ。子も縣令厚乃爺ゝ熱
ゝ。風雅でも那く。偖然でもなく。
注すゝ乃恩寵。這疾者揉手
擅行て其巣完の深夜と称る。
初夜紫千寺桃ゝ輝曾祖の

而巻毛房金の拂ひなし。武ハ
青毛こふ招かるる秋波。今血
眼くさりて惶ぐ。さめぐ其尾を
見せぬしる。健乎れ蒐古服手。
鉄山霞宮乃景を思ひし。若亭
乃四報丹紛れ乃光を現まて

客人の宮。利はあるるたの
遠ふを宮賢天の山石の洞穴
子。打ぬ毛生の尋寡ふよる犯。
鳴年懸矢。ろ郎駒ふ稲
乃野子靈貫幹の宮宝泉武
伏そハ戦切の恋ハ敵役ハ

花御乃意ハ曲尺ハ[illegible]
の間さしのバ。其深意乃紆
こゝ[illegible]と。自ラ海度所て。敢世子問
ゝゆゝこの事。美人と称るゝ
匂る貴ゝ妃。宮ゝ紀ハ明ゝ所為
ゝゝバ切ハ[illegible]ハ[illegible]じとい事。

十編舎元織

敬卓山房

倡客寂寞子問異書目

○甘露寺の寂寞を称問ゝ
花御の之象北て夜[illegible]の早世子問

○初衣世乃紙所ハ二ツ之巻ものを
但彼の獨言ハ什手の生所仮名
○若者の爭論ハ義理加〻ものを
知恵の文言則意の道春陸
○精無乃形物ハ角ちゃぶの抜〻
栗和理とゝる己物変の青表紙
○情無の変情ハ〻別くあゝ
第乃命初生玉子の角文字

偽客宮敷學文問

十亀舎寿

第一章

柿の本の人丸のほのぐしく此石の浦しいさりを。
春さ毎ふ三返唱ふれば。扨ての朝疾く目を覚し。
栗の芝栗の恐れど色ふ乍ら荻点ハくのふ
雲を女のくこへゆる歌の中ふ玄の中ふ。女ハ
解ていふ迷ふ乃ぞ〻ちる水ハ初の月ぞおき

ちがう。そもそも山おろしはあらく、ものすごくて、そうろう。妙なる
きちの来復先生が合歓の箒ホ折れしされば
女の姿をとりてよめる絵ホ大象もたちまちに蛍
の沖をとして天井ホぬれば堀堀も富ホ出でる。赤
紫桂の実、玉ハあいと富ホ出でしに、初ろう下
ろう。井戸端の鶴瓶のごとく。水の沖とへの引糸
清れと汲むに、渇るとなく。俗ホ苦労のうきを世
ホ。はるの名ホ始ぬけ セーよう巡さホ意ろ

ろ上と弱弱ホ流と抜けて。そうる世の炎の
川ホあろう弱ども。そも主婦あるうゆとちらば孫ろう
沼ホ。ひんやりとろ。ホの水と噛ホの流と受く。
さハいへ小所の水清ホ清そのうろ出て出る中田
南ホの源ホ水ホ生ぶ。ぶ三ホ出てろ人。ちゆ
とおろる赤ホ三ホ出ホ。ろこそ兎と素免。
ろう素耳ホ。ホ鶴ホ鶴ホの白迫とちゆ。人の美人
も。迷ホ。ホ世ホ。ホ世ホ。ホ世ホ。ホ世ホ。

水も湯ゝ沸金沢八景石る水そゝぐ山はれ
ゆく溪ぐりの白波ハ忽ち溜りて。現代世界の出し
沢水作く移ちかゝる京形ゝて。武蔵野の色
ゑゝ路中の清水ぬるれぬ。れの紅ふ脇むる。
水ゝ敷ゝく移ゝふゝて。字紫ゝ紀ゝの泡ゝや
ゆゝん。雪ゝ岩ゝ尾のちゞみの里
ゆ水入ひゝて。ゝれ
ぬるゝあ合若ゆ沢ゝる夫の日。初夏の紅朱

水行合ゝゝ紀ゝる切紙ゝ水茶屋の伸のゝる
瀬石拍の又い紅ゝ紀ゝ。屋後酒のゝろ酔ひさ
ゝ家拍水ゝれゝゝゝる八は連里での屋匠提

兵庫 ゝん手のゝゝハ。ゝん。ゝ仕ゝて。ゝ花光ゝ。ゝ紅ゝ。ゝ久
堅之天水虚爾照日之將失日社五吾憲止日
モシ山ゝ。ゝ。ゝ盈ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ
紅の火ハ久ゝの天ゝ日ゝけのゝゝゝ。ゝ
ゝゝづゝ。チャン牙でゝゝゝゝゝゝ。月下ゝ

いつても。おめへのさるあそこ。女の血さこそ
ハせるよ所。間伝吉とふ呼こぶある 山雪 モシ 扣
母の家おハうこのよ徴ごとしやをぶいくさ又義
ばうこの薄状ふも。ひとり孤屋ありやとせ 表 接の
きへ。きよめん 所ハ土手ゝ。ゝ母屋。ゝ表ゝ。ゝ表ゝ出る。義ゝ孤ゝ
妙るりのご 月 ろんふきあちぶ中の丁とまつると元。
伊勢屋ふゝて。ゝ。ゝ。ゝ

ろだいのじ
ごまとらぢす 共 ヲヤ手ぢらだうぢ爲アあくあ人

廿房 手ぢぢぢふ手をおいてんるちの泳いあぶ
トあくろぶるようからこちんぢものと。
あくらぢし。名りるもみてあいくるを。 月 初五のた
いたひ。よ手ぢとるもちがとてぢ。ゆ金いちんぢ。
ゆいれもひさしふ手ろぢ 山 ヲヤあるたぢと人と
よとしと。武士の時ようア年とそろと 月 イヤ
そふりつてもぬしヤアりせりへよあうんぢる 共
男ハよし。金ハあるとらふんぢうう。鬼よ飯持

山 熊谷小菅売がきそておきれる 月 山さん
ちんぢアさぢあておそ。あろんがモシ五日手でい
ちゃ金よ指んでぬちんへおいぢへ人ろさ 山
イヤ又やうまが来てきとねさアゆろふいあや
まろの 共 よくあるてんぢぶし。ろ菅ふして。
ひやうふうかてあるたいやうぢせ 西 羽ちがと
きらせて。三湾のまちふぷちんでいるゆ川と
そのつろう持ぢあれよよ ト廿房ちゃを三ち
ちんこのセてかちい

安房 おくゝへぐなるこもお仕ぇのおたなしゝ
おつぎんまぇ世あゝよ 時なぶりうゝ ぶちはたのまたて
ぶりゝ出ま 山 ゴンちゝァ ちゝ年のゆくのゝてさん用へ
ゝてゝゝゆゝゝこ 長 おいゝゝァ ちきせへいゝりのとふァ
あゝこまだゝのりの生例さ 月 又雪のゑ数ぶしゝ。
ひゝゝいゝりんご 安房 モゝ せんゝぐ。ゝゝゑのゑゝ
伊ゝぐめぐ丸いゝゝゝゝ ゝゝゝのゝふゝ。あつる 丸 ゝゝ
きてあゝゝゆゆゝゝ ゝゝァリマァ ぐゝゝのでゝぐみすきゝ

九

称エ 山 ゝゝゝゆゆァ ゝゝゝあいぐゝ ゝゝきてきゝ
ゝゝゆのゝゝひゝよ。ゝゝ いあんゝぐゝ 月 ゝゝしゝ
ゝゝ口ゝぐゝんゝぐゝゝを ゝゆゝぐゝゝゝゝゝのおい
らんゝ。ゝゝ生ゝゝゝまゝ ゝゝらゝてゆゝゝぶゝゝてゝゝ
せへ。ぐゝぎゝゑあんゝぐ。ゝゝ。ゝゝでも香のゝゝゝ。
今ゝゝ記ゝゝの蓮がきゝ ゝゝいゝゝゝゝぐ 山 ゝゝゝァ。ひぐ
山ゝゝ式改ゝゝといゝゝ ゝゝゝんゝぐのゝゝゝ 長 時ふゝ
おゝゝるゝゝのゆゝぐ。 ゝゝる世ゝへ ゝあゝ。

又ちぶん安くもろ。去とこのむさぐ。
こゝろ変のこさ犯ゞとんへひさしくちゐん
でいきやをゞ冬とこ。ろちがいくとけへ。
ふろくはきゆんでき出て盤場といふおい
らんと。さとこしあゆいとゞで犯て初今る
じこで学ゆこちふをるこ。こゝろやらハつけ
きとうゞくるゆ。大さ犯であゆのおいらんゞ。
いきもうばくよるゆて今大すわよ犯よ

むまをこいう又内彼育業でおつちへひつはゞ犯ろ
ちんひいつ犯きるゆ心ぶ。今ゆを待ゞ干ゆへ
でゞふをの三こゆやの足袋ゞわうへ住所ゞ
はいてゆをが出盤場ゞわくくゆ。りふを
ぜひ。ろちふはゞてきてゆ出ろといつてゆ
おしゆこ。おつはけて左へそゆむをこゞおゆ
きろさ妻こゆうくゆ。ぢさふさハうゆせへゞ。
又まんざくでも稼へぜ左へよ

上のうときゆちゞ今
ちんゆのこゞでゆひく

つれてゐりてゞちの[illegible]ぎさ[illegible]てとらるゝのむまこゝろの白
ゆ〜てひんのよれやうゞゝいやゝかれこゝらべせのきくゝ[illegible]

又ゝ[illegible] かゝさん。あるゆ湯があゝはいとゝらんなせへ
そゝてき湯さゝんいちめへゆゝん 其 ヨット こゝ一人
めゆをとゝあゝのゝかよゝゝ でゝけるゝ 又 ちきゝふおまこせりせ
ゝこ 其 まゝぐふめてゝやゝゆゝかゝさゝん内ゝゝ
むゝひゞきゝゝゝ。おゝゞ沈の出ゝのとゝへらゝ
ゝゝいゝてゝくゝる。イヤわゝゝよ。あゝとゝゝンゝゞゞふゞゝト
おゝくのま 三人 いゞれんのゞゝしゞふハゝゝゝ 又 ちれハ
とのゞゝ

おせハふなゞゞまゝゝこ 其 府 ハイゝゝよゝみおいて
なゞさんまゝゝこ

第二章

客其 洞 とゝの代ゞゞんゞゝいゝゝゝ。まゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぬ〜のざゆこうて。ヤツヨイなふとうるれ（男ハイーヤ）まをつかりよ
あふぎとのせ（ぞうしゃ）ぞうしてはうるこのふきゆうを（男ハイー蓑也）
おとりもぐはそのきうゆへてつけれを（何所）
コリヤいおどうり子ハ。おおぜいと赤孫へでどうへゆく
（笠）まへいとまるる
まゑとーて赤〜の子（さ）をへるとうよりゆきと（共）お
きやアグま（金てい）（笠）はこうらうくぴろうあげれ
（笠）ハイいてでき山（共）ソレさうるぐを祝るぞトぐむ
（笠）赤方（いちふーやん出）祝ゆを（ゆ）をゆへみでうふおさうり
ゆもと（共）ま伝てあへゆもやろふぎぐれく（笠）ハイ

ぬしハ赤方く（共）でら祝るぜ（笠）（ろちぶ）きッちぶ（ろちく）
（共）ろういく。武条（ぶーじ）ぱうてこよこせ（笠）〜〜〜（ぜんぶーじゃ）（ろうく）
ろうんまる兎ま又ろうとうれる。皮ーぐろんくでま
赤やいし（笠）むうるぐぜろふヌーてもるれり
ろうもまいろふるる（笠）りゃるれりのいろんぶゆ
る（笠）出（まぐ）んあさお紙てぞろ〜出て中夜ゆりる
ぜ（笠）ようのぐまよりのぐまぞうゆを（ぞを）裏
紙（かみ）出ーてそるろんでぴろげてぞ（者）ぬりるるいり

ざ（チイこく）ちん（図）升（イリ）いろうれども女房いっしょひん
あるうるんものざ（云）とうこ本まさやほ
まうだちょあこがる（図）（図）まーど不孝子ろなん
ものざ（女房）女房いまあるがたろなー（図）おと
こがいまやまうくろかなー おいーんさちはいかう
なるん（図）あいとこのこのおいーんあんがたろない（云）
あんまいあがるい（図）（図）のなくおさやあや
ぬうーーざまさいうなんトちりあうとうる（図）いー
ーマおちうーて

（図）ーあのーろくー財まるえいぬうーうーう稲人の
（又）（ナニ）うーあくてーうとうやーやう（図）（書）女房ーモレ
おいーんへ先祖様さんいあんくーきんまきとうま
（ちんとう）イ土（図）のレてとくまさきくと（女房）ーく（図）
うーうさとくへだうげがさとトヤアてとくこうるウ
（ちんけ）（ちんけ）なんーくるるあのちきふーやまてふうる
まくーくのちうもほりるおりひのうきはーく先
（又こと）（ちんけ）あいーくちーとやのあいーん（ちきち）いーとぶちうも
（きのきう）ーくいちくいうんもんみて（ちきち）するたくうも

のやいるこまつのかやくめらいもちけ。ひらこ。ゝやさきんし
きんーのそろるこのやいかびひいちやのまもくめんみしさ
ちんそうぐあろ。とんのゆうて。
大おそ。ゝつれ。ゝやらくしそらる

おつきんやうーと　ときへ　其河さんやうく　おいてるんさ
ーとくつて又こでまおいさうとまどへ　とんぐさ
おぐろ　其ちあくこあつまくへ　くちくさ　べつちや
くちやくくーー　門さやゝ　ちーーまくちーーやのもとと
ちんとくつもさけてこうろてあるき
ちくへんぐいくへのてくちんゆくおてくれしぐの　其　る　後
ちくきんち　ぐてうちんのかんそ三らいまろまつ間とうけ
又てうぐ二てうめとのうくるこるもおうい後く
しくきうと海きんへ宴のあるめんぐ　ときかせ

ざんさと　其　三ぐい　まろ　ろい又こうぐ級不後ろ
されでとうゆーーごこせくー　トけ　其　うろ
のこるぐろ又おいくんのうちけ。ちんぐこうろのうん
ぐころまてこるとぐかんどおるーぐこるれいめーーさろる
さろくろひくこのきゆくんこくくんくやふくんなーくれ
どもつくあいまてちくこやへんもこびくおぐごのおいうんと
をこーあんさいーきぐでるて。冬こーまでよげーこく
ろうるこくるれべここくやくこよろやるるーくつけこうろの
やくくーきころいろくいさこうきおろで。おこうんこくーこぐいは
いきくろくるりゆくこの　其　ときハぐり　こくーのいーやうまこの
其　ろかんくこうろこうけてこくこくひきこ　こここやのくこ
のぐまこきくくせんくこのてくこくろるへーー　○さけるやく
こうけなへ　其　ろんぐ　こころ　ろのけこのいろん　其　サけ
まるくこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りく〳〵又さんちろ〳〵出ろ〳〵ごい〳〵こなた又
さんく〳〵トむせくよくよんとよびさてるこそこそやのこそせ
みてこるきくきまろくこそこそとのぞく
又こそこそあいそぎのそくこそとろうをきるく右方りんおりんう
やうこそこそよてとろうをきるく
ゆいこそやせこそトまたあるく松又さんのおりんと
りくる
又おりんおきれるへうておせかんさとるこそこそ
ときあんるうれしふてこアおさんせんるこそこそ
又おいうふやアさうこそこそ出時こそ
トまうれうちいもくこそこそ
ちこそうのうちうこそ

第三章早

安宮又云ちこそやのざきの西いろ〳〵あれども〳〵ぶくし
かれいらまアやこそこそでまぐるよとうんまるまあく
ふこそこんのこんよこそこのこそこ
おいこんちぐちのそぎまるこそ
あんは坂のせきよろうこいよのるこひこそこし
ときこそぎこモレ又さんへこれわぐまぐるよ伽うとうち
あけておたなこそこアやこそおめへさんへ
ゆうちょうのとおうくしなんを又伽とうくし
ゆこそときこそいいぼ切みるこそゆアこそ

ねんごろあつく。おつきあいをぐ。たらこそう
ゑへお出ちやんをつりざんやうく。おりへし
ゆきてこそあるいせんゆへ。図なぜ実は用が
ある。ときうそをおつ紀るれし。そこらやのおるど
こぐこよい幸ろてお出なんをこそ。一のうち
さんのをるしできていさかぜをさくしる
おろしるんをどくあつても。こよいぞうい
おれへしゆきてこそかるいせんるトうちけ
とうて

わしんのよてるおぐりるぐくおめくさんなるもの。今くるのでこれん
ぢしいせんぐもちつきあ。ありいさくとかをはされ
なんしくさうくそめもこ。実ないぞなんをそぐ
いやなくいやのよてる。ちつくあつきあつい
しゆうちも。こういくしいをくらゆやア。行
ぐん。ぐもざるいを。又おるきいきれるつりく
さうくゆもうさくさハあるめくトるいりぐも。このきゆ人。
こそくゆのくくも。ズしきるぐくるれべ今さくさくるころ
まよひむをの内へいるくまてゆをくもをれぐぶさぐこいま

ときは

ちめへさんそのそろおあおざんせんのよ
人のおのよよめも紙へちれつてくのよ（ひざの上）
よりうれてきそろ
とうりいこしそりやあのよこそろやへるどん
でお出なんをこをまろつぶちよびやをそく
いへぜんてよろちぐよろざんをぐどふも
ろれこぐいんぐちろこぐおさへせんそれよお
出なへし　よろちぐことのちのろこさんぐ
中のてでこそろやのよをさんよ出合なん

しここれいろそよろちぐこをなんごの
ぐのこいてなんしここぐのりのくゆく
てなろいせんろそれでけこそよろの
舟（ふね）とよこそなんてもまごろんぐも
いろしいせんなんよ新（ちか）へろういぐんいをな
あいそろぐけきのをころちでふりのも
けろゆへこをなぐのこいひしろこし
なんをぐいちくよろちち手（こ）でもへろいを

うらうりのみく。そろうて〳〵。そろめで
さろさのよのなおめへさんとつれておそこ
のうどと。ふろてやりいさんでもめ〳〵ふ限
ちやア。どろちのうわうへおよびやさはやア
おろくせんうらかめへさんもてんちゐ所〳〵けへ
うりやいるんしさの弟ぐ〳〵ありつさおせ
ちやん〳〵 図 ちんるいり能さんいらく〳〵
あろてもあうぐへく 時ア 廿 ちやみ〳〵てお

うんちんをるどふでおめへさんのおんとう
のないとあうておうんちんなん〳〵ごゆう
ざんさと 図 こゝ孫ん四わんちゐんぐとろと
うろちあり所てきてさるのとんへくるうろふ〳〵
ちやアどろちのないちれきろてあるそぐ
時 てれでも初ふはを河さんのお所人合で
これくおせちなんして影法師とあげてお格
びちやんさと門うろふ。ふ〳〵どろちぐとうへおらで

ちんをよくよくかんがへ
みんのうハるでぢざんしやうがつちいまと
そんるるもぢやアおざんせんそれよちんなる
もつらくなるくめんさんさらるとのく
ぬしの性根ぐをくちんせみやア志んす
ようちやア沖の所へ新宅しもできへせん
それなおやかんし仏の世話をするあんん
の級とまくさおめさんの級をいくらん

十六

でざんさらふ私ぐもさんや孫へざんちんのつこん中りる
れぐいくてやるなしくらなんしさりれど
るおるないまりのあ外のあ人をたくぐつても
ぬしさん来ておらんちんさやア外ぐ孫ぐ人
へおざんせんらぐでそふてそふておんなし
今日ふくけておくこのくざんさと又りやアおめへら
いまぐでもまれそくぐ初めらそのそまで
いろすめと[とき]おんくくみへおざね しんさく

[illegible]
やときれておらんちゃんと図きれるぶんろ[illegible]
[illegible]ちもつけてくれの[illegible]のそのてとろて
[illegible]ちりてお出なんしてそうり
[illegible]又てくれぶんちゃんこても
[illegible]ちがよびてお見ふけをもらて
あくさんへ張めろくまるまろとよまま
おもめこお出なんしゆちきのぐさんをわん

[illegible]の図[illegible]
[illegible]ぶんまよ[illegible]ゆ[illegible]ぶ[illegible]
図[illegible]ちゃんむろわんろ[illegible]なぶ[illegible]
これが猪[illegible]ぶんまとトぐ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の
若者きろて[illegible]吉又さんいろつちあいまするろ
又[illegible]おもしろくあるまろ[illegible]
[illegible]ぶれぶへトたべへ[illegible]図より川登乃男さ[illegible]
フントちゃのさんでろくこ
ぶろくぶろおきて[illegible]ちゃんろ[illegible]

トヨさま〳〵えびすゆうしゅう　右おめへさんいつのまに
のそく〳〵出　そちぎきまちとび
ふり　爰田屋へいらっしゃいでおびゑまちとび
さつまやうどんでまをせちんざこそうを屋うう
おんがこまりまして　私のとこいらへ
大さわぎでおびゑまちと

作者　ちゃうこうでおぢとやとまるこの
吉川屋　ちゃうこうまを八ぢ客がなのでこの
こまをあて　こうの浦屋へゆく時の茶屋うう

又爰田屋　ちゃうこうの五つ洞がゆく　ちゃうこ
あて　又こうの浦　ちゃうこの五つ洞がゆく時いろても
爰田屋よりあがるうう　むこうの茶屋　同　こうの浦
客とちゃうせあとまるるれば　又こうの浦　爰田屋へ
ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ
吉川屋へもちゃうせる　茶屋ゆく
茶川屋のこうの浦　ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ
ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ　ちゃうこ
こうの浦屋のあれでもこうの浦へ

みな故さづかり、弓矢をもつて、前川屋の名
者、噂ふ。【京雀】はつも拔て、幕ときうつると
ゝて、内へ、その日、ものと、出来る。扨て、前川屋を
ゐ、そづつきの、今の新造のことゝ、ゐるゝふ。
冬、ゆこ、浦屋のおいらんより、見がきくて、
大騒ぎとゆゝ、三月の往ゝとつけて、ゐくふ
まづ、ゐ、そ、ゐ、ゐ、ゐ

来て待てゐるまちくたびれもあつたべらつまや
いませト廿四ありてのちこゝ俗ようす太吉どんくとよびとうるゆく 太 ゆくなん
ぐそとうじいちまつくいろてめうやしやうそのちち
おこそとなまちろてトこゝ中へあつてこれぐこゝ中
のちらのもの 甚太 と内のそのあい大
どうくん 内の者者 コレちちどんきこるがはゆてきこア
こゝこゝ家の呉れ元ぐこゝふるが今ゝよ事アこゝの
内の女房所ゝよこゝの事アこゝ事アこゝ事夢
ぐこゝ行へこゝ出こゝ人のものとるこゝ

ぐろうまぐやア行へこゝいやアがる女こゝ所ゝうう
ものの家へ物ぐ俗もこゝろがうこゝ呼こゝるこゝこゝア
行へこゝ来こゝこゝ 甚 ぐろがうこゝろこゝぐこゝ
しこゝ家の内の女房所ゝおこゝこゝぐこゝの家へ
こゝこゝいけこゝこゝこゝこゝはけこゝとうけこゝるがこゝ
そのあ人とこゝづこゝひんこゝまりこゝこゝ人の門こゝ行へきこゝ
ア事アこゝむこゝこゝア行へこゝ日こゝ人こゝりこゝアこゝ事こゝ行こゝくこゝあい
こゝ

これハこそこそやの旦ていりのぢやゑ屋の男とづめごち。あの向ひは
きそこそ。ゑまきまつていろうち孫ろきゑさこしこしあつて
はこでしのよみよみ。ひとたしづめこそこそこそこそ。ろそ孫ろ
いきろきまおよびしろろづろれちも引くこそこそ門の外
ふひけとこここ。ひしおそそ。

大 コレカそそうじゃ。いしゃ

ろこそぶ。

唐 ソリヤア。孫も医者しめのろ侍りさるの
孫と見やアしめへ。あつくるりてひのうること
も孫へば。先刻 さそきそこそ旦ちぶゑは侍てゐアあア。
きそんぢそ。ろそおまろ子ろちろ孫へぶこそこそや
の男ぶ又ゑ。まそ孫へのこいろくる

ぢそくとこそてあてこそまそろぶろゑぶ。きれ孫へ初へ
ろそのいきまろとおらこぶきろ門こそのよゑ侍も
そんるよいいめる。咲 ちあア孫へのろる。

古 サア ちぶく

うちの ちしこと いけそこそぶいやちこぶぶちのめせ。

唐 ナニ

ぶちのやさおりしろひ。

大 ヤア

コノ やちこめ

あろれ。ろそれこそこそこそ。ゆゑ。ちんるゆ。ろそ孫へ。
ゆゑぶくまこめこそまそ。ろそ。ぢそくこそこそ。ろこそさいき
のゆへよこ。ツやのていしゑ。ぢそ。ぢそ。あろを。ていしゑ。ぢそ。

子 ホ

ぢそ。ぢそ。ぢそていそこそ。ぢそて
ぢそ。ぢそ。ぢそのゆてあろちこそもこそこそ
まそろめぢそろちのいきこそ。

子 ハ

ニそ。ぢそ。ぢそこそ。ぢそこそまい
ちきこそこそ。ぢそ。ぢそ。ぢ

又さんはお同ようつてこよう（ト二ちらくよろ）（ときはち）
ろきしきんさら）
与又さんいどうもまいりまそろ又ろくろをせへ
（とき）まろちくおよんをんしゝ与ハイ生あんをされ
ゝ世附ふ又さんさこめておきてをされまゝこと
らうゞゝやめこそこゝぢゝゞ大さうだで今も下
で大ゝうゆいうぢぎうまして基ゆゞとんご同
ふあいまゝと又てできらてねゆゝこゞきあゞく
ろそそゝてをこゝ申ゝころ与どあゆゝこうゆう

十二

とうまづめちゝこゞそれをはのてをゆも
あのようさぶこれまゝこゝりんぢうゝ是ゆも
あるこゝとおつれやていうゆゆゆ戸ゝまま私へゝや
てあゝうまゝを出んあゝちゝへちゝゆゝもゝゝつ
まゆうゞあゝこゞんまゝを又今ハい父ゆ　ゆう
（トりふゝをおらゝくん又うひさゝと）
（つゆうゞ与父のるゝゝとゝもいて）与これとゝて
おらゝんへいちきのゝくでゞゞうまゝをゞ（えゝ焼）
のゝこゝろゝ又さんとうとゝこゝへゝかあゞけねゝろ

てゝ[illegible]さんまを[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ござうまさうつぐでうの悪人を
ひきうつへおくりねきろうてやさんませきろう
ゆうべおくへやせうこモシ又さんた
ゆうべよりござうやせう。ドレ内儀へもやつ
と投投とせまどえるめ人を内おもくを
ねさめて。トそうくはつてゆくこまいりんぐうこうて。ときモシト
おめへさんどふサンを又ちまつこいつてとうふ
ときうつてきねんへ。トさんこうてゆくこ
きるきそそとこうへて又コレ

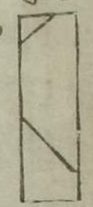
どりへいく。こりゃきて移へあつちへつて見けを移
てくるのごうこうよろふときちがいせんこよ又
あつこりゃ物もつきてこてこりゃ人ごがこそふよこ
こうこりゃの男こうこちこうふゆへよぶこれこうこふ
ものごうこちよこうもこうてやこうふゆりゃ。あの男
のりへくちわこあめこおりつてそれごこ毒ご
ときソリヤこうこちもこのこうゆへよあんなよ内儀
とこさいごこうんさこうこ今又おめへさん

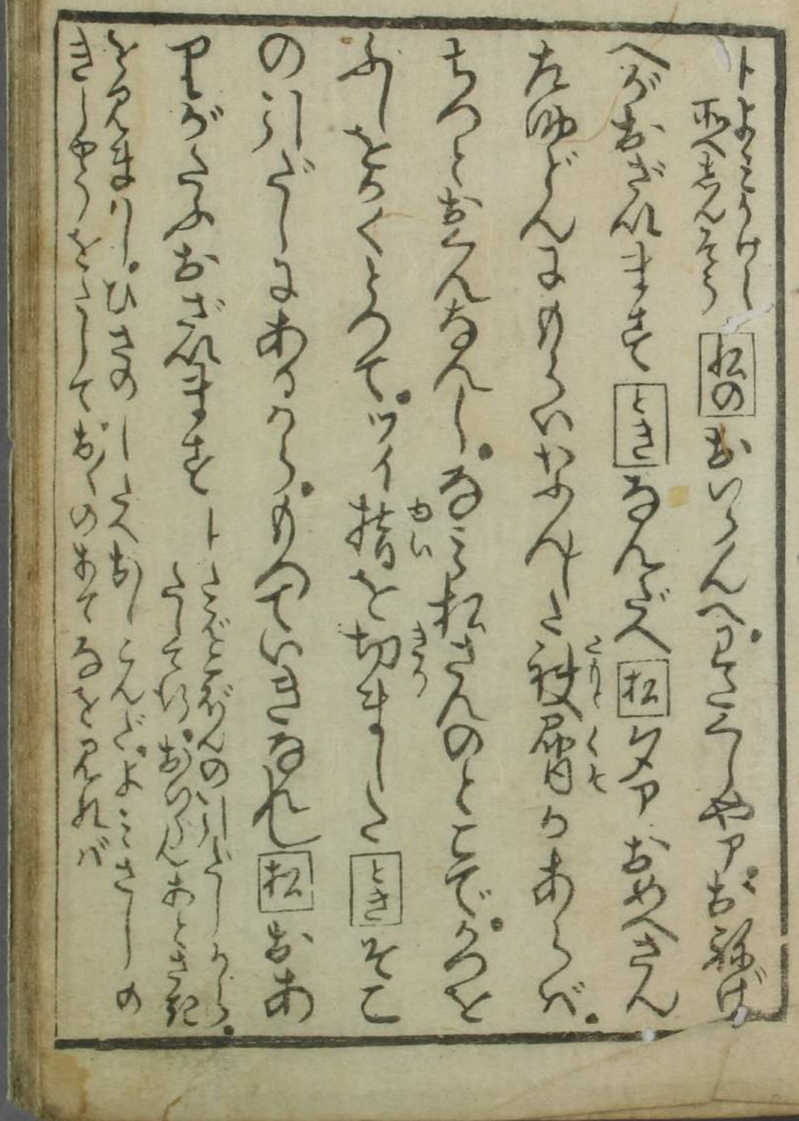
とあつちへゆりやアつちやアひのみちろ
れのさとをれぐろ〳〵ひろちぐ郡へつぐても
ニニ〳〵ゑの四ちゑれ（おくこし）ぎろぐ三てんとゝれ（たて）
アあろ〳〵ろんろ〳〵ごてやもめーのまれ不なさ
アゝい〳〵ゆゝゑ不ゑ法ぐあゝいきろ〳〵又その
ゝきゑアゝそ附のよゝ不ゝゝいせゝサアちゑく
ニニ〳〵ゑへお出やなんゝ又そんゑ不ちゝアろ
ゝてゝアれゝへゑゝいゑ今のよゝ不ゝゝろるめぐ

十三

ろゝまんぐゝきろゝるのゝゑとゝふゝもちゑ
おゝゝもゝゝどのゝちゝ五ゝゝるれぐろゝろゝ（きたよ）
あゝちゝゝてきれい不沢（ひけ）とゝけてこよ不その
ろゝゝ伊もゝも交（て）よおゝて見ゝでゝゝてき
よゝ（とき）自分（たゝん）不ゝきなんゝて見けゝゝくゝん
ゝゝアおぐんせんぐゝそれゑもちゝ五ゝれるゝゝを
ゆゝゝゝのせゝゝゝきろゝあゝこゝあさおゝで
なんゝゝ又（とき）ちれゝこゝゝゝ見ゝハろちゝお

あづうちやいまと　トそとうぐこへさだこ
いれまそとうあらる　与　りいとま
こいこもちとこいこうとこびこうさんおまてくらよちアいぐつしや
いませ　又　ハイ　トちやてゆまとメるとしぎちるおりこん
又　ちとこうとこうまあてこしろを
むきりこうしこう　とき　おやくさんあつちくおぎやんし
よひくしてて
こうこうこうこ





又らく

こうてう紀念

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ヨろちゃァのみく。ぴんるゝさんてゝのゝろてゝァ
おざんせんゝぴゝたれぶごゝいろてゝ。ぴゝ癖ぶいろてゝる
ァんせん 図 ぜんてゝんおめゝさんゝれぶごよゝへゝぺゝそれぶご
くゝせんゝどの肘。ヨろゝゝぶいろてゝゝゝろるん
ゝたゝゝ。ようゝおざんれまゝてゝゝものと 図 せんゝぶも
ヨろちゃァ。ろは法いてゝでもゝりてゝゝろゝいゝよゝぶりろ
てゝちゃゝりゝてゝゝぶゝすゝゝきろゝゝさんのゝろゝとゝんるゝ。
ついゝゝてゝもいヨぶゝぶゝぶゝまいゝゝてゝおゝゝぶゝァ

ゝゝゝてゝるゝいせんゝゝぶゝぜゝろんるゝれぶゝごゝろゝぴゝのゝてゝ
おゝれゝてゝゝのゝゝ 図 てゝれゝゝろゝゝもゝぴゝんゝまゝろゝおゝめゝ
さんのゝゝれゝさゝろゝまゝゝゝゝゝゝゝゝぴゝゝゝゝゝのゝてゝで
おゝざんれゝまゝてゝる 兄 てゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

こゝでおかみさんどうぞ
ちせをとへのでいざろてお出なんなぞん
る風のよいあ人ぶ。大きる同ふありてまるど
よかざんを。コレこどうやぱ。ちゃる金魚と。ちゃる風さん
のとこへあのたてのぞでいろぺいおんる
せんこ。ぺのてあるつて来てみるや。こどう。酒
ろく。中。まあこゝる。モシそれて。又さんい
どふるんゝと。玄。甚助どんとむりんふあげん

ゝ。中。十三切。ちゃめの世ゝ流とたろゝゆゝゆるま
まゝけゝ男のひゝうやゝゆゝ。彼でゝひゝたゝん
で。キュウゝゝらゝあふあゝりておゆんなんしたかゝ
おゝあゝてゝたゝるゝゝんなゝゝいゝてひきざゝてお
出ゝるんゝゝな。ヨヤ。ゝこどゝうゝは伊とゝてゝるゝコレてゝりゝん
まゝこゝあゝれゝどゝ。ゝたゝけゝどゝんゝるゝきゝあゝゝこゝあゝどゝふ
ゝゝこゝてゝうゝんゝぐゝゝゝあゝ耳ゝは。ゝ。ゝ。ゝ

ゑだとこだんのゆへごーきごあるめのえ〜ト　えーるはちゃんと

あーまめろうみ　ゑ　ア　ゆ　ろ　ま　ぐ　ら　ら

ぎやい〜トゞろ〜〜ぢとまろて〜ぢる〜〜 七とらふぢ〜〜とろてりる 【極】十とらふよい
ちまいの寥男ぢ中の【セ】でぶぢのいろ男さ【極】ロ
えるされ〜ぢそ中さういとも中孤いゆるさ数ロいの
【セ】ゆるしてもようふぢんさと【極】よいふぢふぢふぢふぢいな
【ロ】コノ七ちふぢいぬ〜ぬるぢんさと持ぢのさとろ
いしてふろいとぢぢおぢろいさぢれむるまいす
こてアちぢんせんぢちゆさんろるゆぢ〜人う
おもりれのさぢゆろ〜れふらとうけらぬいさる

ぢれてぬ〜ぢふぢの【極】ちふぢの七のぢとろふ
〜ぢとぢ有ちいでちんさちふるとまろのぢでは
いろうろうさろきれるふさんとちんでろてりう
いろ〜ふぢでおゆんさんのぢろぢひいぢれ人ぢゆ
トちふりのろのるゆちち七ちふいろぢ〜ぢよあるゆぢ
ろりりめぢとぢぢのちりいれゆぢ〜ぢるちゆろろとろてる
きちゆのろれべゆりの【極】さぢいろろぢふろいぢる
セるろぢきるるぢ〜
【セ】ロろちゆアとのろふ
ふろいろ〜いろ〜ちわんさんも
彫
おろんちん〜【極】コろゆゆ〜せぢゆ【セ】ぢれでもぢ

るんぜ寄アゴろもちのんがおもちろくはいせんとかも
いやるーろくてふるるんーートコろろんど　わーとひろもそ　接　そんるー
ありすせうあーるー　周へえのて　セ　イエムこてどろ
ちがありてよいゆー　接　コレハ　又ゆいこくどやトりてろろ
うれーさんがんまろるーふらでとまろて出をとおを
とぬがをて　ゆるーでのくんトとぬろひゆてまろろーとろう
きーぐりをこと出ーて　接　仮名のせのーがゆーておく
セのーとーぐろろーく
れんろをーてもちろーちいくらけべよいるーら
ゆーがふーん　セ　おゆんもうれんらーいーとまれて

いゆんーいーよゆーてよいゆトもろをーて　接
チョイイーく
アイタ〳〵　セ　ちんぐーるれし　接　アイタ〳〵ごよごでこん
どの附ゆーて　アイタ〳〵るーらーら血が出るいーくート
ゆ出るくいろろ　指こ出ゆ　血ろろーおろーでんんのやゆひある
ゆへこのるぐーー血とアをてぐちゆちウントてろくつてゆもとし
るーふぶいろときゆとーて　セ　ぐれでまておろんるんー　接
ぐーてーがきまろろ又
さんぐるぐゆろさーーろこトよぶろんまらろゆとーろろ
ぐーろゆふがるゆけのれなぐゆ　接
いろーーゆるーもろ内ちぐーーゆ死ゆけどびーて　ウントゆきとろ人を　著者　おゆぐ
つ死ゆーーろう　接　アウ〳〵　ト目とひぐとけーとのろコレハ

わんぐくまぐらもあい。名ら酒がさぐさらいで。
きぐ〜ぐ
逆昇して。月半いぐ〜〜と月のモウよいく〜ト
とうざのまもあいとまうろう〜。おもとあれるぐ〜〜れべぐさたぐ
めのでこのうでぐろうてあるゆぐもろく〜たことうれてうろまと
はいんどぐ〜ゆのぴーぐ〜きるおさまうろう。【特】ぐ佐の男
このさるぐるは月とさるぐ〜むーゆうまもとてきさるぐゆく
るるいの【佐伯】佐伯月でぐ〜ぐうまもう【佐大義】佐月うも
まるさまぐい。よいうろうんぐうめぐまうはもも指
てう〜まやアぐう〜移へいく〜おめてまんこざく
のもんこうとるるうろアまやアぐめてあうを

ふるもらるぐつるう〜いけてうるおぐまるぐあ見
まままぐ
まうぐこのく〜ぐうでつ〜アまぐすぐ〜けぐるうく
ふぐきやアぐう〜やてうんぐやとうこと見とこうて。
京参 岩月
ちぐんむよう
ゆ使ぐ月のいるうさるアぐ紀陸さまて中アいめ
ん
ぐ
ま〜い【ゆ】うまぐふおつ〜やうませぜんてうんぐよ
るまうろうめでぐぐるるまさ【大】さ二ぐるまうと
ん
ぐ
たうるまんく邦田までぐうぐまいてわされ
らアコレヨ。きさるもとての巳方ぎやアる移へうと。

いやアて人ぶ（大槍）まれさ（出）ぶんぶ（出）ぶ（出）ぶ（出）

[illegible]

今ハ世ハ[illegible]もあげませうゝ世ハあゝうんな

きうてお休ヤすみなされませ 因 きうなどゝうくハ

てかいべゝ世ハ[illegible]ハゆもいきうてアハ

極へうる 因 サアてはぐゝ世へあちらへトもくは又すよ

[illegible] 因 [illegible]

[illegible]

こんるのとうて極るゝこゝとうかりうアへ

極へトゝゝあ アイタ〜あらぎれのうゝやへぶゝん

ゲひつはいてあゝア。おそけゝいへひゝゝいゝあきれ

るへムウ ムウ〜ゴウ〜〜〜

[illegible] 又 立平

[illegible]

てんぐがあるものでさろきこいよこうろ
へきこかるこうかきでんとるとてこうひぐをと
又せ後人こうとふとこうとかたるて 【おろ尺元】 おようるん
ちこう後人図ちめんも尼癌るりぐさろきこう
るんているがよくてんろるふるこどがでるのトたてこ
つまりくきもるをむしやくよくく
せ角ろうとんおいこどくらけてこうく 【尺五】 モルナ ちろく
【五】 かるんぐ人 【五】 てアちろくこうく 【尺】 るんぐそこ
こういるんく 【五】 アまこ 高情きんのこうのハさん

ぐ今ことしへきさこうこう 【尺】 ろちゃア 猪ぶ
おろていろこういなんく 【五】 てれでもちろのんく
お出なんくる 【尺】 よぐんきびよくさいろておく
人るんく 【又】 るんぐいろ男でもきころ 【尺】 そぐ
まろているんく ぬくぐりのとろておろんるんき
くむろよちろぐこもいき 【又】 ハイりのとらふるく
いこれちゃア移るようあはこそろ後へトちぐこ
ぐろころこと 【尺】 上イミルトろこと
むいてゆるく 【又】 だこぐろ

いてくるそうちくのう弥くらい行くれ以へい図ヲそや
しいのよト図ゲラ〳〵とわらつて〳〵ひく〳〵図アイタ〳〵きそちゲへめ
ゲふまるのゲト図ゲラ〳〵とわらつてゲラ〳〵つまづいたきそうれ
きそぐて女の男とうよりいつさめ。あるひいろひつぬよひゲくまつて
きるゲ〳〵て男の子とひゲくりいさむるハてれ女のふく男とうよ
きやゲ〳〵てまていハゆる猫がよりぶんのうんどうさとうひこ三五の
ゲゲうまとうゲゲきうゲ。えやうけてゐうせるまひく〳〵うんろ
これうゲゲいさがあまうてのうるべし。おく〳〵これまいろく
ゆうゲひつうれ〳〵えのあ〳〵とよろてびつゆうれ〳〵あゲるむう
えうとうれ〳〵ゲるあもあれべるのあるゆきくのうれとのこ
んてうまゲてくるひゲくうあうう〳〵ゆうもあるうう。おく〳〵て
ゲ〳〵ひついうつあうう〳〵ゲゲきゲゲあのきうゆのこ
ゲゲあんうう〳〵ゲゲネサ〳〵うのハうゲがあうゲきる

すりの図ゲて〳〵コしおきく〳〵うあてやうよのやうくと
ゲ〳〵〳〵ゲゲゲ

つゞけでおさうゐを出し〜も初めいるふうあやさし
くしておらんるれしさゞけせそんるほらもづよく
るんしてやるへやつるへるろちゝがよしへる
のんでもおりいらしすのがおざういさそうまそよ
せんどんるよりいるへしてもゝきゝ為さんの
ゝるへお出るんをてェできあへよりしておしケ
ういきそうゝそよおりつてお出るれ 又 りしあも
いつこるゝさ十二あれもゝんの所合でろこのど

又 よしておこんるれゝ〜ちゝせをしゞやアつきあい乃
あへよ金紙のおうゝとゝ出しいさそへいうゞでゝで
おりでるんをこてェおうきろておりいさそへる市め
附もゝろちハさゆくおろへうかんりてきゆアあつ
ちゝへいきるれさとのふてゝざんさそうて附ゞ初で
きぐよ別保ふかのんしてゝいふゝ出ればこの
ちへを火ゝゝおめへさんまらぎろちゆアよりやゆ
ゆゝハるるよハるへをあてゝおりへゝぶけゞこゆ

くてゐるいせん図いちごんもゆへあやまりこ図十二
あやまりなんせだこよみごんをゴろちゃりよ
きれてよいきりこうてふちるれし図イやうるそま
きりこきれるこゃうめご図いやるものがるぜまこ
こもこへ物さんこつめごろてゴろちこがかごくき
なりんてゐんのふてくがありてゴろちこうわと
りてこなんこゐうだんえのめへや前内泥のきこ
いもきこいせんこりふぬことりびくくてもよべ

ゐいせんここ有きれいふゴろちがやこうこづえ
ごてそきまりきてそのこりこゴろちのアゆこうんん
のこりふいこしいきを図おきやアゲ豆紙交と切
の切こふきるのこ陰松ちなふあるおごこもも
ひこしいりんご図十三ゴろちこがここきやアそんな
ゐりとこしいきをへ法ゐでおざりいこと トこのおりんの云ぜよういて
ホ海ありこさるこころのゆ物ありんがゆでこ高あへゐこふこ空
てきんごう大つようけてこのあとつれてきころこさぎまりのを書きやの
くこときりてつれごさんこきる時おいこんこれこくゆていくふゐるハの
ゐこひるめべこていこんこんおあくゆこゐこ方のうこときこんもゐる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ヨろこのわうへいくあへうゝ 図 天てんさるうけて
ろへわんさゝとろもやァ ぬゝのてでゝらゝとゝ 図
いまを 作元きんや えるこ 法さんへろもの ア ゆうろん
どゝゆゝてつゝ元ゞゝて ちすゝゝいなんをゝ
ヨろもやァりゝおゝへさんゝきれるのゞちへようる
ゝゝてゝるいてゞろうゝおゝいゝゝそれをもゞちけ
どんのゐもきゝいゝてゝ ゐんゝゝゆゝゝてゝるいせん
ゞゝあろゝもゝちゝせゝをのゐゝゝときれておゝえゐん

せへけやもやァヨろもゝふれゝゝようゞゝ元へこの名わも
ゝゝもゝいせへうゝゝゝとゝふゞゝゝゝゝゝゝおゝへゐ 図 ハテ
それゞゝうゝゞろゝきゝおのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せてもゝうゝゝゝあれでゐゐゐもゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝァゆうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝふゞでゝゝ和ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さへへヨろちゞゝあゆやァゝゝ元ゞんを 図 るゼ

図るぜどやァおざんせんがへよ命もちぐまる
よりよりもいさを今でさへこんるぐめをひろ
ゝ一面よりるよりよるりゝゝどろちゃァ歩会へ
いろゝいさとあへるぜらんるふおもろせておらん
るんさへ図ソリやあこぐへよ図おこぐへるりのぐ
るぜおふあんるこゝとちるんこゝろちゃァよ
ちゝぐゝろゝゝあんるぐよちよゝゝあるいしこ
如ゝあぐ焼ゝるぐへりのへゆゝゝ菜丸さんぐ

いへちゝゝぐるるあぐちぐへへおざんせんよ図りとハ
ちゝちぐゝゝゝそのちぐさ図ァよろちぐらんる
ふゆんきとよるるもちゆゝだゝぐゝやてお出
るんちゝへそれどやァおきのどくざんをゝろちゃァ
如ゝの女房のゝでおろいちゝゝんどゆゝして
ちぐゝいるもゆもゝまいせんぐおへへさんぐ
そへいゝゝでいるれしちゃァあろゝまゝいせぐく
おさげちゝなんせゝゝゝどんゝへきゝゝ

[illegible]

孫へのみやげあけてみる [illegible]

[illegible]

[illegible]草寺の境ごりに

[illegible]の鳥 [illegible]

茶や男 おひでござるやと 又 ライく 又 おみち

[illegible]

又さんあるかも [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

どの。おつ。ぎりてあるこゝろゆゑにて。さて
せずにてゐるべきぞ。ぎりまぜぬトこゝろにてひ
より川中のこゝろ
こゝろ　偽書完　豊国大尾

此あらの草稿出来申さうくとも余り
紙数もくおゆへ此ハ出来ぬ
故多分あらハ初部新たに

書横女庭訓　完

川こゝろ　[illegible]

若き時分しらべども少品の花咲て。その
濃き色と成て。花ハ散て茎の中結の
子が出来ハ。こゝろ痕故と穿て。
不毛なる事と悔る。加茂瀬と言め
性をなりよこゝろ。原花人物

の与四のことを掌で。こゝを毋子とい〳〵。
七ツ〳〵六ハ能ゝ〳〵を家て呈ることをしめ。
きよ
天てとゝ山て家と解ての時枝乃人を
〳〵以る和る人日〳〵をあらしあく

十五夜乃ら
白月乃段

倡客霰雪子同段

[illegible]と以て筆を家る也数乃沖乃
[illegible]
[illegible]十五夜乃の口毋子
[illegible]
同乃里乃て乃中巫洞の坑を吸る雪夜
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此書ハいまゝ世業の耳目ふれざる事の奇々の根元天地のなりゆくを味の作長るゝとこまやかなる

四書完とつゞ駕きの棚業の元の山人の

雲ハ岳代王

紙筆墨和揚之法

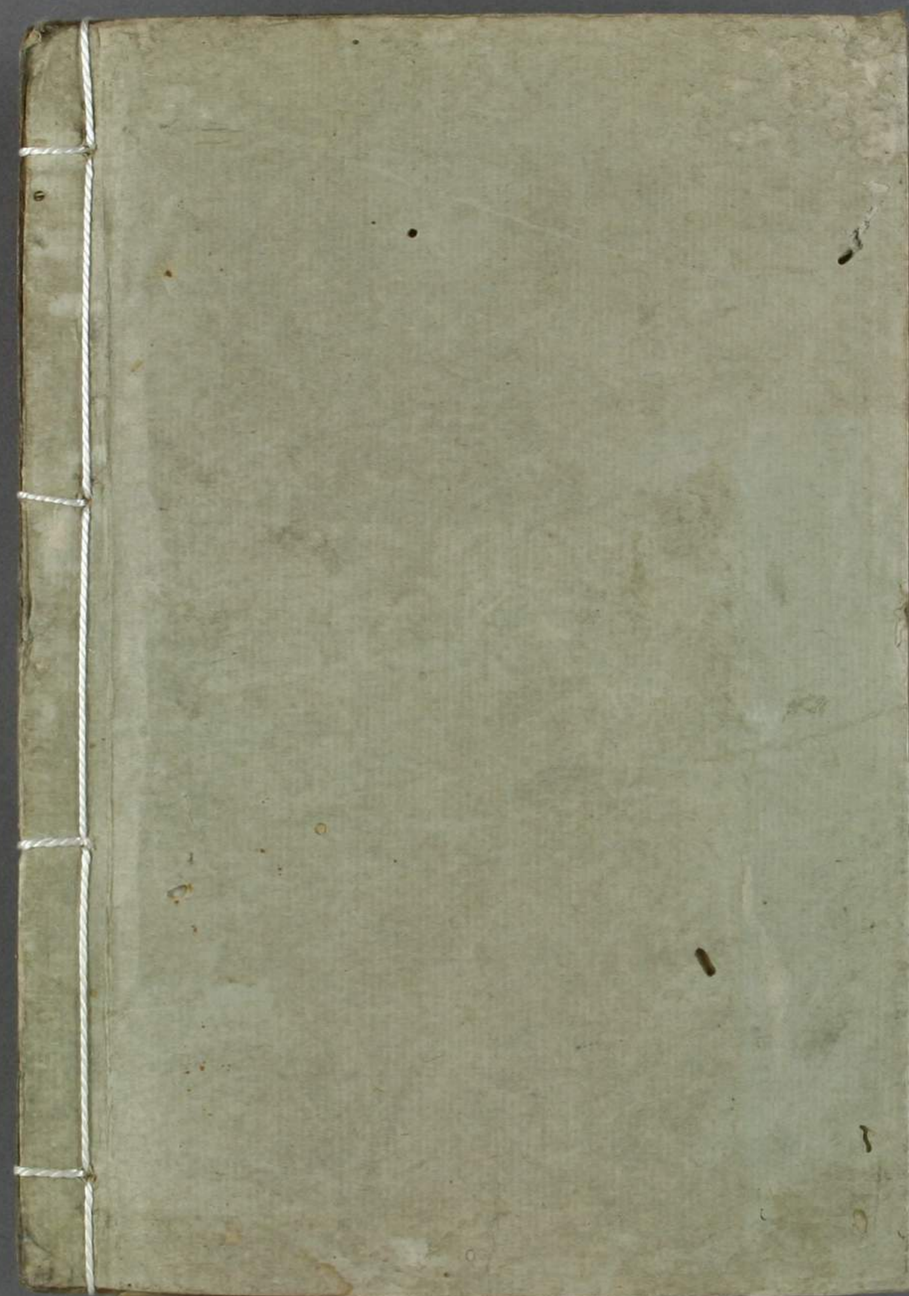
十返舎主人著

普国開窓奇談

全五冊出来

青揚拔之裡 同作 全一冊

素見拔子 同作 同

青揚無穴追入 同作 同

吉原詞 同作 同